

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 稲敷市立沼里小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	稲敷市立沼里小学校 全校児童（175名） 1学年（26名）、2学年（26名）、3学年（36名） 4学年（26名）、5学年（28名）、6学年（33名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 (パラリンピック集会)</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	・東京オリンピック・パラリンピック 2020 日本代表パラアスリートによる講演、ゴールボール体験、交流活動を通して、障害の有無にかかわらず誰にでも大きな可能性があることを知るとともに、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。
5 取組内容	<p>(1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用しての事前学習</p> <p>○全学年で1時間、パラリンピック集会前に事前学習として、「I'm POSSIBLE」を活用した授業を行った。</p> <p>【実施内容】</p> <p>○パラリンピックって何だろう</p> <p>○ゴールボールについての説明</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(2) パラリンピック集会</p> <p>①実施日 令和元年11月21日(木)</p> <p>②実施時間 10時30分～12時00分</p> <p>③講師 関彰商事株式会社所属 ゴールボール選手 山口凌河 氏</p> <p>④内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の生い立ち、パラリンピック、ゴールボールについての講演（全校児童）</li> </ul>

- ・アイマスク着用によるアイスブレイク（6年生）
- ・ゴールボール、アイシェード、メダル見学（1年生～5年生）
- ・ゴールボールを使っのキャッチボール体験（代表児童）
- ・ゴールボールPK デモンストレーション
- ・講師とのゴールボールPK 対決（代表児童）



### (3) アイマスク、点字器（点字作成器）、書籍を使っの事後学習

#### ①高学年によるアイマスク体験

- ・アイマスクを着用して、日常生活の一部を体験することにより、視覚障害者の心情を感じ取らせた。

#### ②6年生による点字学習

- ・視覚障害者のコミュニケーションを取る方法の一つである点字に触れることにより、その必要性と難しさについて感じ取らせた。

#### ③書籍を使っの事後指導

- ・図書室に東京オリンピック・パラリンピックコーナーを設け、自由に本を読める環境を整えると共に、パラリンピックについての調べ学習を実施した。



## 6 主な成果

### (1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用しての事前学習

○パラリンピックという言葉に初めて出会う児童も多く、障害者スポーツについて、どのようなものなのかを知ることができた。

○児童の感想には、教材の中で示されている「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ！」という言葉に感銘を受けたと書いている児童も多かった。

○ゴールボールという種目は、児童にとっては新鮮な種目であり、そのルールを学習した上で、パラリンピック集会に臨むことができた。

	<p>(2) パラリンピック集会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○視覚障害者である講師の話を直接聞くことにより、困難に立ち向かってきた姿や絶望から自分自身の生きる道を見つけ、力強く生きている姿を肌で感じ取ることができた。</li> <li>○ゴールボールのデモンストレーションを見たり、キャッチボールやPK 対決などの体験をしたりしたことにより、ゴールボール競技への興味がわき、東京パラリンピック大会への関心が高まった。また、障害者の立場になって補助する人やルール・場などを工夫すれば、障害のあるなしにかかわらず同じようにスポーツを楽しむことができることを理解できた。</li> <li>○この集会後に発表されたゴールボールの日本代表選手に、講師の山口凌河先生が選ばれ、その喜びを共有することができた。</li> </ul> <p>(3) アイマスク、点字器（点字作成器）、書籍を使っの事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アイマスクを着用し、誰かに寄り添ってもらわないと動くことすらできないことを体験したことにより、視覚障害者の気持ちを感じながら歩行したり動いたりすることができた。</li> <li>○点字器を活用し、点字の読み書きを体験することにより、視覚障害者の日常生活を体験することができた。</li> <li>○オリンピック・パラリンピックに関する書籍を購入し、児童が読めるようにしたことで、パラリンピックやゴールボールだけでなく、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めることができた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が親しみをもてるように、茨城県在住のパラアスリートを講師として招聘したこと。</li> <li>○聞くだけの講演会にならないよう、体験や見学を取り入れた集会活動を企画したこと。</li> <li>○事前学習に「I'm POSSIBLE」を活用し、事後の学習と合わせてパラリンピック集会と連携させたこと。</li> <li>○講師との連絡・調整を十分に行い、本校の実態に即した綿密な計画を作成したこと。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パラアスリート等を講師として招聘するに当たり、学校だけで人選したり、人材を確保したりすることが難しいこと。</li> <li>○今回の取組を一過性のイベントとして終わらせないよう、今年の東京オリンピック・パラリンピック 2020 を学校全体で盛り上げていく気持ちをもたせること。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講師である山口凌河選手への応援メッセージを児童会主催で作成するとともに、出場する試合を映像で観戦し、ゴールボール日本代表を応援する。</li> <li>○東京オリンピック・パラリンピック 2020 で行われるゴールボール以外の競技や開閉会式を興味・関心をもって見るができるよう、書籍等を活用し体育科や特別活動の授業の中で学習する機会を設ける。</li> </ul>